

# 山梨ライトハウス

第83号

発行/社会福祉法人 山梨ライトハウス 〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1

TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL <http://yamanashi-lighthouse.or.jp/>



山梨県盲人福祉センター（点字図書館）  
電話/055-222-3502・223-1113（貸出専用）  
青い鳥ホーム 電話/055-252-8994  
青い鳥成人寮 電話/055-224-5060  
青い鳥支援センター 電話/055-221-1260  
青い鳥老人ホーム 電話/0553-26-6631  
青い鳥ケアホーム 電話/055-235-5566



山梨ライトハウスの理念は  
「**視覚障害者の未来を照らす**  
**光の道標となること**」です。

## CONTENTS

巻頭言	1・2	ボランティア紹介・交流会	6
事務局長挨拶、感謝状・表彰状贈呈	2	青い鳥ケアホーム三棟目	7
報告・お知らせ	3	お知らせ	8
ライトハウスニュース	4・5		

# 視覚障がい者と情報機器

山梨ライトハウス

理事長 萩原 満治

パソコンやインターネットなどの情報通信技術（ICT）。暮らしの質を向上させ、学習や就労の機会を大きく広げてくれる便利なツールです。視覚障がい者にとっても、社会参加を容易にする潜在能力を秘めています。

この春、弱視を乗り越えて東京の大学に進学した二人の若者の話から始めましょう。山梨日日新聞に三月末に掲載された記事覚えていますか。山梨学院高校に三年間通った石井瑠惟（るい）さんは、アイパッド（iPad）、指で触れて操作するタブレット端末）を使って大学受験に挑戦し、見事合格したのです。

石井さんは小学校四年の時、瞳の中心部が徐々に見えなくなる弱視の二つ「黄斑ジストロフィー」と診断されました。今は小さい文字は見えにくく、漢字だと三十六ポイント（約・三センチ四方）以上の大きさでないと判別できないのだそうです。だんだん視力が失われていく不安との戦い。想像を超える葛藤があったに違いありません。中学校までは弱視者用の拡大教科書を使っていました。でも、黒板の文字はよく見えません。そこでタブレット端末のカメラ機能を使って黒板を撮影。写真の拡大機能を利用して、文字を読み取る方法を考えました。これだと文字サイズが調整しやすいばかりでなく、明瞭に見えます。早速、学校側に掛け合って授業に臨みました。



タブレット端末を使って大学入試センター試験を受けた石井瑠惟さん（山梨日日新聞社提供）

高校になると拡大教科書がなくなったので、黒板だけでなく教科書や副読本もタブレット端末に取り込みました。二年になると校内の試験も問題を端末に取り込んでもらって受けてきました。しかし、大学受験が近づくと心配事が出てきました。

これまで大学入試センターは、障がい者の程度に合わせて配慮し、パソコンの使用は認めてきましたが、タブレット端末は使用許可が下りませんでした。

一般の受験生と同じ問題用紙では文字が見えないので、大きなハンディになります。また携帯用の拡大読書器を使うと、文字の判別は可能でも問題全体を読むのに時間がかかってしまいます。

石井さんは、学習支援に関わった県立盲学校（Eye愛ひとみ相談支援センター）の薬袋愛教諭や眼科医の協力を得て、入試センターと掛け合いました。その結果、今年初

めて石井さんらが全国で初めてタブレット端末の使用が認められたのです。

石井さんは大学受験でもタブレット端末を使い、一般入試で受けた早稲田大学教育学部数学科に合格を果たしました。

便利なICTツールがあり、視覚障がい者にとって有効だとわかっていても、それが目の見るには長い時間がかかります。石井さんは「これまでタブレット端末が使用できないよう訴えてきた人たちのおかげ」と話しています。

障がいのある受験生についての地平が開けたのは、本人の努力だけではありませんでした。家族や学校の先生、眼科医ら多くのサポートがあつてこそ、初めて実現したのです。

ICTツールは様々なものが開発されています。例えば、視覚障がい者にとって最も不安なのが外出。歩道上の段差や道路の障害物、駅のホームなど多くの危険が潜んでいます。

イタリアの企業は頭に装着するステレオカメラと骨伝導のスピーカーをセットにしました。カメラが撮影した画像を処理・分析して、障害物や風景などを音声でアドバイスしてくれるのです。

また、デンマークの企業は、スマートフォンに接続する小さなボックスを開発しています。スマホに向かって口頭で行き先を伝えると、箱の表面にある小さな穴から突起物が飛び出し、進行方向を教えてくれるのだそうです。

しかし、ICTツールは障がい者の情報入手方法としては、いまだに低い利用状況になっています。ちょうど古いデータですが、内閣府が十年前に調べた障がい者のインターネット利用率は五十パーセントちょっとです。視覚障がい者に限ると、さらに低い利用率が想像できます。なぜでしょうか。情報機器が高いこともあるでしょう。キーボードや周辺機器、ソフトウェアが操作しづらいという声もありました。この中で気になったのは、「使い方を教えてくれる人が身近にいない」（十七・八％）といった、サポート体制の充実が急がれる点です。早稲田大学に進学した石井さんのケースからも分かるように、本人の努力だけでなく、周りの支援がどれほど大切か。視覚障がい者の数は、全国的に増加傾向にあります。高齢化や生活習慣病の広がりなどが背景にあり、日本眼科医会は二〇三〇年には一〇三万人と、〇七年（六四万人）から二二三％増えると予測しています。中途失明者の特徴は、白杖（はくじょう）や点字などの生活能力を盲学校などで身に付けていないことです。読書器や音声時計など、ICT機器ではないけれど日常生活を補う多様なサービスがたくさんあるのに、何も知らずに諦めてしまう人も多いそうです。障がいのある人に、障がいの状況に応じて使い方を教える能力のある人材はまだまだ少ないのが現状です。山梨ライトハウスは、学校関係者や企業、行政などと連携しながら、障がい者が学びやすく、使いやすい環境づくりを、一歩でも前進させていけたらと考えています。

## はじめまして

山梨ライトハウス法人事務局長（青い鳥ホーム施設長兼務）

伊藤 正己

初めまして四月から標前事務局長の後任としてまいりました伊藤です。歴史ある山梨ライトハウスで働かせていただき毎日緊張の連続です。私は、甲府盆地の最南端にある市川三郷町から通勤しています。甲府とは違い、人口減少、限界集落の最先端ともいべき山間地域に住んでいます。住環境は厳しいところですが、住めば都と申ししましうか四季折々の自然豊かなところです。

趣味は、スポーツ観戦で、特にラグビーが大好きです。かつて甲府市のラグビースクールでコーチをしていたこともありましたが、さすがに今は、年二二回トップリーグの応援に出かける程度です。ラグビーの魅力は、身体と身体がぶつかる迫力もさることながら「ワンフォーオールオールフォーワン」に代表されるその精神・考えだと思います。私たちが働き、学び、生きる上で多くの事を教えてくれるスポーツではないでしょうか。今年、ワールドカップ大会が、来年はオリンピック。パラリンピックが日本で開催されます。今からワクワクしています。

よく歴史上で好きな人は々と聞かれます。私は、歴史の表舞台に立ちた人も良いのですが、身近に生き社会の基盤を作った人に興味があります。それは、森鷗外の「渋江抽斎」という本を読んだからです。渋江という世に知られていない藩医を鷗外が詳しく調べあげ二冊の本にしたものです。資料や人伝いに調べればその人の歴史が浮かび上がり大変興味を覚えました。

そのような思いを抱きながら、山梨ライトハウスの創設者 長谷部薫先生の「盲学校時代」、「山梨の盲人史を探る」という本を読ませていただきました。設立までのことや盲人史のことが知ることができ大変感銘しました。そして、その歴史に恥じないようにこれから頑張っていくと思いますので、どうかよろしく願います。



青い鳥ホーム入所者と伊藤法人事務局長（写真中央）

## 感謝状を贈呈

3月26日に開催された山梨ライトハウス役員会の席上、萩原理事長より次の皆さまに感謝状並びに表彰状が贈られました。

### 【感謝状】

- 猪股 幸子 様  
（法人本部 寄付金品等の功労者）
- 輿水 孝勇 様  
（法人本部 寄付金品等の功労者）
- 安原久美子 様  
（青い鳥奉仕団 福祉功労者）
- 高部多加代 様  
（青い鳥奉仕団 福祉功労者）

### 【いきいき輝き賞】

- 小林 俊男 様（青い鳥成人寮）
- 影山笑美子 様（青い鳥老人ホーム）

### 【表彰状】

- 山本 理仁 様  
（青い鳥成人寮 永年勤続）
- 名取 洋美 様  
（青い鳥成人寮 永年勤続）
- 保坂麻理子 様  
（青い鳥成人寮 永年勤続）
- 細川 純子 様  
（盲人福祉センター 永年勤続）
- 向山 一実 様  
（青い鳥支援センター 永年勤続）



感謝状を受賞された花形前理事長のご親族



いきいき輝き賞受賞者



受賞者の皆さん

# 山梨ライトハウス研修を終えて

平成三十一年二月八日(金) 盲人福祉センターで、山梨ライトハウス職員研修が行われました。今年には田辺眼科の田辺直彦院長をお迎えし、「眼科最新治療」と題して講義をして頂きました。

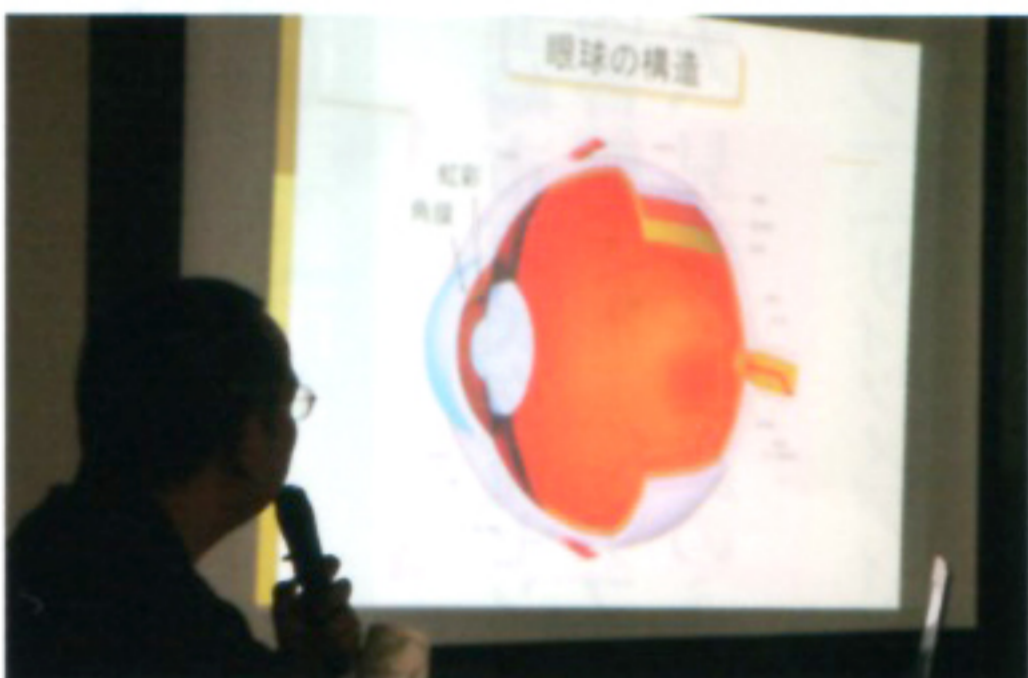
「眼球の構造」「視覚に障害を及ぼす疾病の原因」等の眼科の基礎から、「人工網膜」「IPS細胞を使用した再生医療」など、眼科治療の最新の情報まで伺うことが出来ました。特に再生医療のお話は、映画の中の未来の話ではないかと錯覚してしまう程の驚きの連続でした。しかしこうした治療法が夢物語ではなく、実現しつつあるとの事です。

日本ではIPS細胞を使った治療が二〇一四年に世界で初めて行われ、結果は良好との事です。しかし、視力が回復したとしても〇・二程度なので「全く見えない真っ暗な人」が「見えづらい人」に変わるだけという問題があります。その為「見えづらい人」が「見えづらくらい人」になることを増やし、どうやって社会が適合していくかが課題となります。

田辺医師は、ロービジョンとそのケアについても取り組まれています。ロービジョンとは、「視覚の機能が弱く矯正も出来ないが、全盲で



田辺直彦院長



分かりやすい説明

はない視覚障害」の事です。WHOでは視力が〇・〇五〜〇・三未満と定義していますが、日本では数値を示して定義をしていません。田辺医師は「社会で生活する中で不便と感じる事は社会的失明」と考え、山梨県で暮らす場合は車が必須である事を踏まえ、運転が出来ない視力〇・七以下をロービジョンと考えています。これから先、そうした方を、誰がどのようにケアするか課題となるとおっしゃっています。

今回の講義を聞き、医学の可能性の広がりにも驚きましたが、医学だけでは視覚障害者の生活が改善されないことも分かりました。その人に相応しいケアの提供が必要だと改めて感じました。その為には、ケアの知識・技術の習得はもちろんですが、その人が必要としている情報の提供が求められます。生活の中で情報を得るためのアンテナを巡らせ、日々学び続ける姿勢が必要だと感じました。

# 青い鳥ホームの紹介

## 「未病」

何となく体がだるい、肩こりがつらい、食欲がない等々。しかし、西洋医学的には異常がない。こういった、健康ともいえないが、病気ともいえない状態を、東洋医学では「未病」のひとつと考えます。中国最古の医学書には、すでにこの「未病」という言葉が用いられていたと言います。

青い鳥ホームでは、患者 人ひとりの体質や身体全体の状態を総合的に捉えていき、身体全体のバランスを整える治療をします。いろいろな症状は身体からのサインとして早めに受けとめ、未病のうちに体調を整えるようにしましょう。



心を込めてマッサージ

## 「治療」希望の方へ」

あん摩マッサージ・鍼灸を職業として行うには、国家資格が必要です。今、巷では無資格の類似業者が横行していますが、当ホームでは、国家資格を持つ三名があん摩マッサージの施術を行っておりますので安心です。

今冬、低温が続く春になって寒さから解放される頃に疲れが出ます。病気になる前の未病の状態をマッサージで改善しましょう。ぜひ青い鳥ホームのマッサージ室へどうぞ。

### 開院時間・料金等

#### ★受付時間

日曜日を除く午前9時～午後3時

#### ★施術料金(税込)

90分 3,000円

60分 2,000円

30分 500円

1,000

※当日の受付もできますが、事前にお電話でご予約下さい。

電話 055-252-8994

場所 甲府市塩部一丁目6-20

(朝日小学校正門北側を10メートル入る)

# ライトハウスニュース

## NEWS NEWS NEWS

### ● 盲人福祉センター ●

#### 移動ライトハウスin 韮崎市

平成三十二年三月二十三日(土) 韮崎市市民交流センター「ニコリ」にある韮崎市立大村記念図書館主催「バリアフリー映画上映会」に合わせ、見えにくい方、見えない方のミニ福祉機器展を開催しました。

当日は、メーカー「システムギアビジョン」、「リイツメディカル」様のご協力を頂き、最新の電子ルーペ、拡大読書器などを、またライトハウスからは、プレクストーク、触読・音声時計などを展示し、多くの来場者の方に体験して頂きました。

来場者は、韮崎市内の視覚障害者のほか、北杜市、甲斐市、甲府市、山梨市などからお出で頂き、なかには開催前に放送されたYBS「ラジオライトハウス」を聴いて駆けつけてくださった方もいました。

体験コーナーで一番人気だったのが、今注目の最新機器「オーカムマイアイ2」でした。この機器は、百円ライターほどのデバイスを眼鏡のつるに装着し、指を指した先にある様々なものを読み上げてくれるほか、人の顔の認証まで出来ることもあり、体験待ち頂くほどでした。また、これらの機器のほか、点字絵本や視覚障害体験メガネも展示し、図書館へ来館した親子連れなどに視覚障害への理解を深めて頂く良い機会となりました。

今回は、「バリアフリー映画上映会」と初めての同時開催で、大勢の方の映画を楽しんで頂くとともに、同じフロアで福祉機器の体験をしていただけました。今年度も様々な福祉イベントへ参加することが出来たらと考えておりますので、是非、皆様方からの情報をお待ちしております。



オーカムマイアイ2で新聞の読み上げ体験



ルーペなどの体験

### ● 青い鳥ホーム ●

#### お墓参り

昨年四月十二日急逝された花形幹雄前理事長の一周忌に、点字図書館の職員と青い鳥ホームの皆さんがお墓参りをしました。

青い鳥ホームは、昭和三十二年七月に開設された視覚

障害者の就労の施設であり、入所者の全員が視覚に障害を持つという共同生活の場で運営していました。当時から今というグループホームを実践していたのが青い鳥ホームです。

その青い鳥ホームを視覚障害者のマッサージ業の就労の場としてきたのが花形先生です。偏見の残る時代に苦勞に苦勞を重ね軌道に乗せていきました。多くの方々から慕われた花形先生が亡くなられたことは「今も信じられない」と、ホーム利用者は感じています。三月お彼岸が近づく十八日「花形先生のお墓参りに行きましょう」と、先生の眠る昭和町の泉応寺へ向かいました。大坪宣覚ご住職の案内でお花とお線香をお供えし、花形先生を偲びました。「みんなよく来た、よく来たね」と奥様とお二人で喜んでいただいているようでした。



安らかに眠りください。



泉応寺にて

### ● 青い鳥ケアホーム ●

#### 五周年記念お食事会

青い鳥ケアホームは平成二十六年に第一、平成二十八年に第二が開所し、併せて十名の方が暮らしています。五周年を記念して甲府富士屋ホテルでお食事会をしました。先に温泉に入ってからゆっくりにお食事を楽しみました。司会のKさん、緊張したようですが、がんばりました。一人ずつマイクを持って思い出や目標を話してもらったのもよい経験になったことと思いますし、カラオケも盛り上がりました。

もうすぐ完成する第三に、新たに四名のお仲間が増えます。すでに十周年を気にしている利用者さんもおいますが、それまでみんな元気に過ごしましょう！



これからの目標は?



素敵な会場にて



萩原理事長のご挨拶

●青い鳥老人ホーム●

春の楽しみ「いちご狩り」

青い鳥老人ホームでは、三月十四日と十九日の二日に渡り、小瀬の藤田農園にいちご狩りに行きました。農園のビニールハウスに入ると、ハウスの中は十三種類もあるいちごの甘い香りに満たされて、久しぶりに外出した利用者さんの気持ちはいやが上にも昂りました。

農園の方から練乳の入ったお皿を渡された利用者さんは、職員といちご狩りを始めると、笑顔で赤いちごを口いっぱい頬張りました。摘んでも摘んでも、摘み切れない程たくさん実ったいちご。後でいくつ食べたか尋ねると、自慢気に「歳の数と同じだよ」と話してくれました。

その後に行われた川柳会では、楽しかったいちご狩りの川柳が詠まれました。

「掌のいちご頬張りハイポーズ」

「いちご狩り子どもに返りはしゃぐ声」



大きな口でパクリ



全員集合2日目



全員集合1日目



いくつ食べたかな

●青い鳥支援センター●

ワクワクの新年度

新年度がスタートしました。新元号が「令和」となり、支援センターも清々しい気持ちで四月を迎えています。常勤スタッフも増え十一人となりました。登録ヘルパーさんも含め三十三名の大所帯ですが、支援センターではコミュニケーションを大切に明るく楽しく支援内容も確実に充実したものが提供出来てきています。

今年の桜は四月に満開になりましたね。三月三十一日のお花見では風が強く肌寒かったです。「平成最後の花見だね」と、大はしゃぎしてきました。昨年より行事の際に皆で作業をしてきました。フォトフレームやお弁当袋など、簡単だけど自分だけの作品作りは結構楽しく集中して行う事ができています。今回は、滑らないハンガーを作りました。こんなのオススメよ。というものがありません是非教えてくださいね。

今年度も利用者様に喜んで頂けるような支援や行事を通して、地域支援事業所の拠点としての役割を担っていきたく思います。進級、入学した皆さま、おめでとうございます。私たちスタッフは、利用者の皆様の成長を毎年身近に感じ、一緒に喜ぶことがとても嬉しいです。



平成最後のお花見



笑顔でピース



美味しな〜れ



みそ玉を作ります

●青い鳥成人寮●

演奏会

三月十七日日曜日、県内企業の軽音楽班の五名の方が、青い鳥成人寮にバンド演奏に来て下さいました。

演奏会をするのは初めてとのことでした。二曲目は津軽三味線でこきりこ節、次はユーミンの「春よ来い」、そしてメンバー紹介を兼ねながら楽器紹介がありました。中島みゆきの「糸」は利用者さんも職員もしつとり聴き入っていました。四曲目は皆さんのよく知っている「世界にひとつだけの花」で、前に出て踊る人、飛び跳ねる人、歌う人、手拍子する人で一気に盛り上がりました。アンコールもまた、皆さんの大好きな「きよしのズンドコ節」で会場は笑顔いっぱいになりました。

その選曲や演奏からは、皆さんの人柄の温かさや日頃の頑張りや伝わってくるようで、嬉しい気持ちになりました。何よりも、利用者さん目線で楽しんでくださった事に感謝致します。「もっと練習して、また来ます。」と言って下さいました。是非、また来て下さい！



カッコいい楽器がいっぱい!



みんなで一緒に唄いました。



素敵な演奏、有難う御座いました!

# ボランティア紹介

## 奉仕団のお仲間に入れていただいて

山梨青い鳥奉仕団 音訳部 田中由貴子



校正者の方々には、頭の下がる思いです。

かつては、カセットテープへの録音で、訂正もなかなか大変でした。今はパソコンを使つての録音となり、画期的な進歩です。

顧みれば奉仕団のお仲間に入れていただいて、何と十八年経ちました。同期がほとんどいなくなつた今、力のない私が続けてこられたのが不思議な気がします。

当時父を亡くした後、何かを求めていた私はラジオから流れた募集の告知に「これだ!」と思つたことをよく記憶しています。

講習中、なかなか先生のご指導通りに読めず悩んだ事もありました。

やつと提出した二冊も、何枚もの訂正と共に戻ってきました。(今も変わつていませんが)その度に、次はこんなに直されないので、次に正確に早くと思うのですが…。

「朗読」というのは生まれ持つた感性もありその未熟なところを講習会で指導を受けたり大勢の上手な方の読みを聞いたりして学んで自分を磨いていくものかなと感じています。又、出させていただいた「音訳部朗読発表会」は、とても良い経験となりました。

奉仕団には多くの優れた方々が活躍され、力を発揮されています。そんな先輩や仲間から学んだたくさんの事は、私の人生の大切な宝物となっています。

「音訳ボランティア」の活動は、今の私の生活に力を与えてくれるものであり、利用者の皆様喜んで下さる本の製作ができるようこれからもっと、プライドを持って、一冊一冊、大切に仕上げていきたいと思ひます。

今年の交流お楽しみ会は、二月十七日(日)の午後、盲人福祉センター研修室で開催されました。参加者は偶然昨年と同じ六十三名でした。「山梨青い鳥奉仕団の歌」の合唱でスタート。読者の皆様も既に覚えていて、一緒に歌つて下さり、これこそ交流そのものでした。自己紹介では、読者が自分で読んで(点訳か音訳で)気に入った本を具体的に紹介して下さつたり、また先天盲の方は、「本は点字で読むもの」との長年の習慣から、音訳本はあまり頭にはいつてこず、とかく眠りに誘われる等々本音を明かして下さつたり、楽しい、しかも貴重なひとときでした。そしてこの日一番盛り上がったのは、青い鳥ホームのメンバー(相澤さん、中沢さん、清水さん、山口さん)による「合唱」(指導の先生のピアノ伴奏つき)。「春の風」、「花」、「ふれあい」の三曲でしたが、とにかく清らかな素晴らしい声で、会場の拍手が鳴りやみません。中には、涙ぐんでいる人もいた程です。それでアンコールとして、曲目の「春の風」をもう一度歌つてくれました。奉仕団からの出し物は「ありがとうの缶詰」の群読。作者の俵万智さんと坊ちゃんのとんちんかん、それでいて的を得たやり

# 読者と青い鳥奉仕団との交流お楽しみ会

青い鳥奉仕団 長瀬由美子(点訳)

井口登美子(音訳)

とりに一同大笑い。

後半の歓談の時間は、和気あいあいと準備のしがいがありました。クイズ・なぞなぞのコーナーでは、何人かすぐひらめく方がいて、にぎやかでした。準備したプレゼントの配布もうまくいきました。そして読者代表(藤野さん、穂坂さん、名取さん)より点訳、音訳への感謝の言葉をいただき、「今日の日はさようなら」を全員で合唱し、桂田理事長の「楽しい時間はあつという間に過ぎてしまいます。今日は大変楽しかった。来年もまた会いましょう」のご挨拶でお開きとなりました。今年も担当理事も二年目で準備が比較的スムーズだったので、私共自身もみんなと一緒に楽しめた気がします。ご協力ありがとうございました。又来年も大勢のみなさんの参加をお待ちしています。



青い鳥ホームのメンバーによる合唱



奉仕団音訳部有志による群読

# 青い鳥ケアホーム三棟目

青い鳥ケアホームは2014年に一棟目、2016年に二棟目を建設し、家庭的な雰囲気、利用者一人ひとりの意思を尊重した支援に努めています。日中はそれぞれ利用している事業所に通い、休日はのんびりと過ごしたり、職員と買い物や、映画、時にはイベントに参加したりと、楽しく暮らしています。短期入所の利用も多く、色々な方と接する機会にもなっています。

さて、昨今増えているグループホーム入居や短期入所への地域ニーズに応え、二棟目前の空き地に三棟目を建設中です。6月には完成し、一階には支援センターの分室として相談支援事業の事務所を設け、2階に4部屋あります。各機関と連携しながら更なる福祉サービスの拡充に努めます。



3棟目を建設中



利用者さんたちが、生活支援員さんと世話人さんの似顔絵を描いてくれました。似ている人、似ていない人、人ではない何かになっちゃった(?!) ような絵もありますが、どれも温かみのある仕上がりです。

## 第37回 長谷部賞の贈呈

授賞者 柳本 千代子様

視覚障がい者福祉のいきとどかない時代に、山梨ライトハウス創設以来、創設者の長谷部薫先生とともに、「自らの幸せは自らの手で」を提唱し、いつの日か差別のない共生社会を目指そうと奔走した花形前理事長の姿勢を、姪として幼いころから見聞きし理解、尊敬してきました。

視覚に障がいを持つ花形前理事長を奥様亡き後も、外出や通院などに付添い支え、永年において支援してられました。視覚障がい者協会の会合にも参加するなど理解を深めてきました。

今回、兄妹そして姪ら7名の意思を代表し「視覚障がい者福祉に係る費用の一部としていただきたい」と、盲人福祉センターへ寄付金をいただきました。



### 長谷部賞について

本県の視覚障害者福祉の父と慕われ、山梨ライトハウスを創設、山梨県盲人会（現・山梨県視覚障がい者福祉協会）また山梨青い鳥奉仕団を設立するなど、本県の障害者福祉の発展に半生を尽くされた長谷部薫先生の功績を永く記念するため、本賞を創設しました。

本賞は、昭和58年より毎年贈られています。永年にわたり視覚障害者の文化の向上と福祉の増進に尽力され、その功績が特に顕著な方々に贈られます。今回の受賞者もふくめ、これまでに43名の方が受賞されています。

## 令和元年度「移動ライトハウス」のお知らせ

今年度は、次の箇所へお邪魔させて頂く予定です。詳しくはまた広報などでご案内させていただきます。

- 6月16日(日)午後1時～  
笛吹市視覚障害者福祉会主催「福祉機器研修会」
- 7月27日(土)午後～  
山梨県視覚障害者協会都留支部主催「視覚障害 勉強・体験会」
- 11月23日(土)午前10時～午後3時  
甲州市社会福祉協議会主催「こうしゅう福祉まつり」
- 3月下旬  
韮崎市立大村記念図書館主催「バリアフリー映画上映会」開催に伴う「見えにくい方、見えない方のミニ福祉機器展」

山梨ライトハウスでは、図書館事業のほか、歩行、点字、パソコンなどの自立を支援するための訓練も行っています。これらのサービスを多くの方に知って頂くことを目的に、地域に出向く「移動ライトハウス」を行っています。

是非、皆様の様々なイベントでご活用頂ければと思っていますので、情報をお待ちしております。

## 令和元年 青い鳥成人寮 作品展示即売会

新元号になって、最初の作品展示即売会を開催致します！

丹精込めて作った陶芸作品や手芸品の数々を販売しますので、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

- 場所  
オギノリバーシティショッピングモール1階特設会場  
山梨県中央市山之神1122

- 開催日時  
7月19日(金)  
12:00～20:00  
7月20日(土)  
10:00～20:00  
7月21日(日)  
10:00～16:00



## 川柳

(四月のライトハウス川柳会から)

浅川和多留 選

百十歳五代を生きる生き字引

埜村 和美

軒先の桃咲き心癒しけり

加藤 隆

人の世の流れ絶えない涙川

細川 一

期待する令和の時代平安に

桑原 梅次

辞書開く節々太い手に思う

本間りょう

ギャラリーにひと足早い春が咲く

岡部 恵子

亡き父の形見の判子愛おしむ

佐野 しま

夢背負い小さな肩が弾んでる

萩原 満治

